



郵便局での

電話交換業務

この写真は、昭和時代の電話交換作業風景です。

ケーブルがささっている機械は、電話手動交換機と呼ばれるもので、机に向かう方々は、この機械を操作する電話交換手です。

電話は、かけたい電話番号をダイヤルすると、着信音がり相手につながります。それは、電話交換機という機械を利用するからです。現在、そのすべては自動化されていますが、写真の時代は、この作業がすべて手動で行われていました。

当時は電話交換室へ「〇〇番につないでください」とかけて相手先へ繋いでもらう仕組み。電話交換手は、依頼された相手の電話線を手動で切り替えていたのです。

東京で電話交換業務が開始されたのが明治23年12月。電話交換作業は、すべて郵便局で行われていました。

大崎郷土史によると鹿兒島郵便局が明治29年に電話交換業務の取り扱いをスタート、大崎郵便局では、昭和4年に開始しています。昭和10年度末の本町の電話加入者は、26名と記されています。器械や債券、敷設費が高額なことからはなかなか普及せず、有線ラジオにより通信が行われていたようです。

その後、黒電話というダイヤル式の電話が登場し、番号どおりに交換機が自動に動いて相手先につながる仕組みに変わり、一般家庭へ普及していきました。そしてついに、コンピュータ制御で、より高速に、より確実に大量処理できるデジタル交換機が誕生し、現在の形へ広がっていきました。

古い写真を探しています！

*大崎町内の昔懐かしい風景や、建物、まつりなどの古い写真を随時募集します。詳しくは、下記問い合わせ先まで連絡下さい。

*広報担当が自宅までお伺いします。



【お問い合わせ先】

大崎町役場

企画調整課 企画広報係 ☎ 476-1111(223)